

- +++++
- ◇ 学術フォーラム「福島第一原発事故にともなう放射線健康不安の精神的影響の実態と地域住民の支援」の開催について（ご案内）
 - ◇ 平成26年度「消防防災科学技術研究推進制度」研究開発課題の公募について
 - ◇ 合意形成学国際プログラム（IPCOB）セミナーの開催について（ご案内）
- +++++

■ 学術フォーラム「福島第一原発事故にともなう放射線健康不安の精神的影響の実態と地域住民の支援」の開催について（ご案内） ■

- 1 主催 日本学術会議
- 2 開催日時 平成26年2月15日（土）13:00～17:00
- 3 開催場所 公立大学法人福島県立医科大学大講堂（福島県福島市光が丘1番地）
- 4 趣旨 福島第一原発事故にともなう放射線の健康影響への不安に加えて、生活や将来に関して多くの不安を抱えている。このような不安の中で人々が健康に、自分らしい生活を送ることをどう支援することができるのかについて、さまざまな立場から議論を行う。

5 次第等（予定）

【コーディネーター】

- 川上 憲人（日本学術会議連携会員、東京大学教授）
- 安村 誠司（日本学術会議連携会員、福島県立医科大学教授）

- ・ 福島第一原発事故に対する日本学術会議の活動
春日 文子（日本学術会議副会長）
- ・ 原子力発電所事故がもたらす精神的影響（逐次通訳あり）
Evelyn J Bromet（米国ニューヨーク州立大学特別教授）
- ・ 3.11後の放射線健康影響情報への不信とその要因
島蘭 進（日本学術会議第一部会員、東京大学名誉教授）
- ・ 県民健康管理調査からみた避難者のこころの健康問題
矢部 博興（福島県立医科大学教授）
- ・ 福島プロジェクト：放射線ストレスへの心理支援
秋山 剛（NTT東日本関東病院精神科部長）
- ・ 話題提供 地域の現場からみた福島県被災者の多様な不安と困難
草野 つぎ（福島県会津保健福祉事務所専門保健技師）

6 その他

- ・ 参加費 無料
- ・ 申し込み 当日先着順、不要
- ・ 問い合わせ先 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当
〒106-8555東京都港区六本木7-22-34
電話：03-3403-6295/FAX：03-3403-1260

■ 平成26年度「消防防災科学技術研究推進制度」研究開発課題の公募について ■

この度、消防防災分野における競争的研究資金制度である「消防防災科学技術研究推進制度」について、平成26年度の研究開発課題の公募を開始することといたしました。

本制度は、公募の形式により消防機関が直面する課題の解決に向けて、高い意義が認められる提案者に対して研究を委託し、国民が安心・安全に暮らせる社会を実現するものです。

対象となる研究課題については、消防防災活動や予防業務における消防機関のニーズを反映した、特に緊急性・迅速性を求められる自然科学、人文・社会科学等に係る研究課題を対象といたします。詳しくは下記をご覧ください。

1. 募集期間

平成26年1月6日（月）～平成26年2月7日（金）12時まで

2. 対象となる研究開発課題

- (1) テーマ設定型研究開発課題：消防庁があらかじめテーマを設定したもの
研究実施期間：1年間、2年間又は3年間で対象とする技術ごとに設定する目標時期までに、所要の成果を達成出来る期間
- (2) テーマ自由型研究開発課題：テーマ設定を含め、提案を受け付けるもの
研究実施期間：原則1年間（実用化や現場への導入について、消防機関のニーズが存在するものは2年間）

3. 応募方法

公募要領に従い、府省共通研究開発管理システム（e-Rad）により応募を行ってください。

4. 代表的な成果事例

高圧水駆動カッターの研究開発等が産学官連携推進会議において、産学官連携推進功労者表彰（総務大臣賞）を受賞しています。

消防庁 平成26年度「消防防災科学技術研究推進制度」

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h25/2512/251225_1houdou/01_houdoushiryou.pdf

公募要領

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h25/2512/251225_1houdou/youryou.pdf

本制度への積極的な応募をしていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】 消防庁 消防技術政策室
千葉、西尾

T E L : 03-5253-7541

F A X : 03-5253-7533

E-Mail : y.nishio@soumu.go.jp

合意形成学国際プログラム（IPCOB）セミナーの開催について（ご案内）

Responsible Governance in a Complex World: A System of Systems

Engineering Design

（複雑な世界情勢下での責任あるガバナンス：System of Systems Engineeringの視点から）

※使用言語：英語

日時：平成26年2月20日（木）16：00～17：30（受付15：30～）

会場：東京工業大学大岡山キャンパス 西9号館2階コラボレーションルーム）

（東急目黒線・大井町線「大岡山」駅 徒歩3分）

〔アクセス〕

<http://www.titech.ac.jp/maps/ookayama/index.html>

<http://www.titech.ac.jp/maps/ookayama/campus/index.html>

（大岡山西地区No. 27）

主催：合意形成学国際プログラム（IPCOB）

参加費：無料

講演者：Keith W. Hipel 大学著名教授（University Professor），PhD
カナダ・ウォータールー大学工学部システムデザイン工学科

PEng, DrHC, FIEEE, FRSC, FCAE, FAWRA, FINCOSE, FEIC Centre for
International Governance Innovation 上席研究員

カナダ王立協会科学アカデミー・プレジデント

※Hipel教授は、特段に優れた業績をもち当該分野で現在も指導的立場にある外国人研究者として認められ、平成24年度採択日本学術振興会（JSPS）外国人著名研究者招へい事業の一環で来日。

講演概要：
社会や国が直面する大規模かつ複雑化した様々な問題に取り組み、責任あるガバナンスを目指すためのSystem of Systems Engineeringの枠組みをベースとした統合的・適応型設計アプローチを提唱する。System of Systems Engineeringの枠組みは、参加型アプローチを用いて様々なステークホルダーの価値観を反映しつつ、持続可能性や公平性、レジリアンスといった目標を達成することが可能である。

<お申込み>

参加希望の方は、Eメールの本文にお名前、ご所属（肩書き）、メールアドレスをお書きの上、profhipel.at.tokyotech@gmail.com 宛てにお送りください。定員を超えた場合には、先着順とさせていただきますのでご了承ください。

<お問合せ>

profhipel.at.tokyotech@gmail.com

担当：合意形成学国際プログラム事務局 猪原（いのはら）、勢川（せがわ）

当セミナーは、平成24年度採択日本学術振興会（JSPS）外国人著名研究者招へい事業の助成により開催しております

ウェブサイト：<http://www.ipcob.org/seminar-keith-2014-02-20-j.html>

日本語版ポスターpdf：

<http://www.ipcob.org/Web-Docs-2014-02-20/keith-poster-2014-02-20-j.pdf>

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

★-----★

日本学術会議では、Twitterを用いて情報を発信しております。

アカウントは、@scj_info です。

日本学術会議広報のTwitterのページはこちらから

http://twitter.com/scj_info

☆-----★

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://www.h4.dion.ne.jp/~jssf/text/doukousp/index.html>

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>
〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34